

農業



令和3年3月号
会誌 No. 1675

目次

巻頭言

趣味と道楽……………大岩 年也 3

論壇

ため池の保全と整備……………角田 豊 4

農事功績者座談会

山形セルリーの産地確立と担い手育成……………會田 和夫 6

表彰農家訪問

集落営農法人との連携を図り高生産性の水稻・麦作経営を確立、
GAP取得やスマート農業に挑戦……………八巻 正 21
—岩手県一関市に、小野農場：小野正一さん、文子さんを訪ねて—

研究の最前線

秋まきコムギ「きたほなみ」における品種特性を
生かした栽培法の確立と普及……………荒木 英晴 34
—北海道産コムギ，安定生産への道程—

農業・農村の現場から

いつ食べてもおいしいお芋ブランド「行方かんしょ」の確立…青木 隆治 45
—ピンチをチャンスに！JAなめがたの戦略—

世界の農業は今

- イタリアの水田輪作体系とスマート農業技術……………篠遠 善哉 50
—水田輪作の意義と環境保全を意識した水稲栽培事例—

私の経営と志

- 地域とともに生きる……………松本 晃昌 56
—農業を夢のある仕事に—

農業関係予算情報

- 令和3年度農業関係予算の概要……………編集部 58

統計情報

- 令和2年産春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量…………… 60

農政情報

- 大日本農会だより…………… 62

- 編集部から…………… 62

ミニ情報

- 「2020年の農林水産物・食品の輸出実績」について…………… 20
2019年の農作業死亡事故について…………… 33
令和2年産4麦の収穫量…………… 44

表紙写真説明

安房菜の花（千葉県館山市）

千葉県は日本有数の生産量を誇る食用菜の花の一大産地です。年間食用ナバナの主力産地である千葉県の安房地域（南房総市・鴨川市・館山市・鋸南町）は温暖な気候がその栽培に適しています。

2010年に「安房菜の花（あわなのはな）」として地域団体商標を取得しました。ブランド化を図るため包装資材や段ボールを統一して出荷しています。

また、一元集荷を行い、すべて真空予冷処理を行うことによって鮮度を保持し、「安房菜の花」の品質を一定に保ち有利販売に努めています。

菜の花は、アブラナ科野菜で、花蕾と葉、茎を食用とします。茎の甘さ、花蕾と葉の独特のほろ苦さがバランスよく、歯ごたえのある食感が魅力です。

9月初旬から種まきが始まり、収穫は10月下旬から翌年の5月上旬まで続きます。JA安房では日量最大1,500ケース（1ケース20束・4キロ）を出荷しています。昨年は6万ケースを出荷し、今年も桃の節句に向けて出荷のピークを迎えています。

（写真及び文：安房農業協同組合 担い手指導課 吉田 和子）